

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 21 日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|-------------------|
| 事業所番号 | 3870104381 | | |
| 法人名 | 株式会社 ヨシケンコーポレーション | | |
| 事業所名 | グループホーム いしい | | |
| 所在地 | 愛媛県松山市北井門3丁目14番28号 (電話) 089-956-1213 | | |
| 管理者 | 小椋 真吾 | | |
| 評価機関名 | 愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班 | | |
| 所在地 | 愛媛県松山市持田町三丁目8-15 | | |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 9 月 9 日 | 評価確定日 | 平成 20 年 10 月 21 日 |

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 5 日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------------|------------------------|--------|
| 開設年月日 | 平成 16 年 10 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 20 人 | 常勤 11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 | 15.2 人 |

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-----------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 27,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000 円 | |
| 敷金 | 有()円 ○ 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有()円 ○ 無 | 有りの場合 償却の有無 | | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 1,100 円 | | |

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 5 日事業所記入)

| | | | | | |
|-------|-----------|---------|-------|------|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 6 名 | 女性 | 12 名 |
| 要介護 1 | 3 名 | | 要介護 2 | 4 名 | |
| 要介護 3 | 8 名 | | 要介護 4 | 3 名 | |
| 要介護 5 | 名 | | 要支援 2 | 名 | |
| 年齢 | 平均 86.7 歳 | 最低 61 歳 | 最高 | 96 歳 | |

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

| | | |
|----|----|--------------------|
| 指定 | あり | 指定介護予防認知症対応型共同生活介護 |
| 指定 | なし | 指定認知症対応型通所介護 |
| 届出 | あり | 短期利用型共同生活介護 |
| 加算 | あり | 医療連携体制加算 |

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑が点在する閑静な住宅街に立地しているホームである。道路を挟んで中学校があり、登下校時の活気あるざわめきは利用者には良い刺激となっている。運営者は「地域への貢献」を意識し、地域とは近所付き合いが大事であると考えているため、地域の方から支援してもらっただけでなく、ゴミステーションの掃除、回覧板の管理など住民としての務めを果たそうと努力しており、地域と良好な関係が構築できている。利用者に活気ある生活を提供できるよう、音楽療法、園芸療法、演芸、ボランティア団体や園児との交流などを催している。管理者は丁寧に職員を指導しており、利用者の笑顔が多いホームである。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前は地域密着サービスの理念について課題とされていたが、「地域とは」「密着とは」という定義を管理者と職員間で討議しており、意識付けがなされている。「交流」と「つきあい」についても意識しており、近所づきあいを大切にしたいとの話には地域密着の意義の理解度が高いことがうかがえる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価は職員間で話し合い、ユニット長がまとめている。管理者はまとめたものをそのまま受け入れており、職員の理解度を確認する物差しにも利用している。また、職員も自分たちのケアの振り返りに有効に活用している。運営推進会議でも議題として取り上げ、真摯に取り組んでいる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議には運営者も積極的に参加しており、参加者からの声に耳を傾けている。ホーム行事のそうめん流しに合わせて会議を開催した月には71名の参加があり、会議が近隣住民との話し合いや交流の場としても有効に機能している。ホームだけでなく、地区の公民館も開催場所として利用している点などから、地域と交流する場となっていることがうかがえる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

管理者は家族に積極的に声をかけ、意見や苦情を引き出すよう努めている。一方で管理者は、職員を育てること、また家族との信頼関係を深めることを目的として、家族への報告は担当職員から積極的に行うように指導しており、職員も熱心に取り組んでいる。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

自治会を意識した地域という枠組みで「近所づきあい」を目指している。月2回、パンの移動販売にホームの庭まで来てもらうことで、近所の方と利用者が和やかな時間を共有している。野菜のやり取りや花の観賞など、日常生活に溶け込んだつきあいができている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームいしい

(ユニット名) 1階ユニット

記入者(管理者)
氏名 小椋 真吾

評価完了日 平成 20 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------|------|--|---|----------------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | (自己評価) 「素直な心」「初心を忘れない」「思いやりの心」の3つの心を元に、職員一人ひとりが具体的に理念を構築していけるよう。定期的に話し合いを行っている。 (外部評価) 理念の中には地域という言葉はないが、運営者が「地域貢献」という思いでホームを開設しているため、管理者や職員は地域を包括的に捉えており、理念の基礎には「地域と共に」という概念を感じることができる。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | (自己評価) 人事考査や勉強会にて、個々の考える具体的理念や仕事でどのように生かしているかを言ってもらい、話し合いを行っている。 (外部評価) 管理者は職員との日々の関わりを大事にしており、ちょっとした立ち話でも、底辺に理念を持った指導をしている。職員も振り返りのきっかけになっていると実感しており、地道ではあるが着実に取り組んでいる。 | | |
| 3 | | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | (自己評価) 広報誌や運営推進会議にて理念を生かし、どのようにケアをしているかを伝えているが、家族や地域の人々への浸透までには、及んでいない。 | ※ | 来所の都度に、職員がご入居者様の様子などを伝えているが、理念を意識して伝えられるよう工夫したい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 4 | | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | (自己評価) ホーム庭にて、毎月第1、3水曜日にパン屋がパンを販売知っているが、地域の方にも声をかけ買いに来ていただき、その時に交流を図っている。近所の方から、菊の栽培を見に来てくださいと声をかけてくださったり、野菜をおすそ分けしていただいたりしている。 | | |
| 5 | 3 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | (自己評価) 地域の方にホーム行事に参加していただいたり、回覧板やごみ拾いなど入居者様と一緒にいたり、町内の行事に積極的に参加し、地域の方との交流を大事にしている。消防訓練にも地域の方が参加していただいている。地域の清掃行事などにも参加している。 (外部評価) 管理者も職員も「交流」と「つきあい」の定義を理解しており、利用者が地域住民として「つきあい」ができることに力を入れている。肩に力を入れず、普段着の付き合いを意識しており、地域の枠組みを自治会の規模と捉えている。 | | |
| 6 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | (自己評価) そうめん流しや夕涼み会などでは、地域の方を招待して、お食事を通し、交流している。地域のゴミステーションの清掃をお手伝いしている。地域の認知症高齢者の一時利用や依頼があれば訪問を行う。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 7 | 4 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | (自己評価) 改善項目を理解して、職員会や委員会、入居者会議などの際に話し合いを行い、施設改善に取り組んでいる。 (外部評価) 自己評価は職員間で話し合い、ユニット長がまとめている。管理者はまとめたものをそのまま受け入れており、職員は自分たちのケアの振り返りに有効に活用している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------|------|---|---|----------------------------|--|
| 8 | 5 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | (自己評価) 運営推進会議では、利用状況やケアの状態などの報告を行い、運営推進会議で得た意見や情報を職員会議などで、話し合い、サービス改善に生かしている。 (外部評価) 運営推進会議には運営者も積極的に参加しており、参加者からの声に耳を傾けている。会議が近隣住民との話し合いの場としても有効に機能している。会議への参加者の多さには目を見張るものがあり、地区の公民館も利用している点などから、地域に溶け込んだ会議となっていることがうかがえる。 | ※ | 運営推進会議のメンバーにホーム独自の評価項目を記入した評価表にて評価をしていただいたが、意見が少なかつたため、次回は内容を改善していきたい。 |
| 9 | 6 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | (自己評価) そうめん流しなどの行事に来ていただき、ホーム内を見ていただいている。また、生活福祉課の担当の方にも必要時こちらから連絡し、訪問をしていただき、直接に入居者様とも話をさせていただいている。 (外部評価) 市担当者にはホーム行事への参加を促し、利用者と直接話す場を作っている。管理者も市役所を訪れた際には担当課に挨拶に伺うなど、積極的に行き来できるよう取り組んでいる。 | | |
| 10 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | (自己評価) 職員勉強会で周知し、フォローアップで資料配布をし、地域福祉権利擁護事業と後見人制度の違いが説明できるよう事故学習してもらっている。県社会福祉協議会に個別で相談に行き、必要な方の利用相談に応じている。入居者も内容を理解した上で、費用面から利用に至っていない。 | | |
| 11 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 職員勉強会にて虐待防止などを学び、入居者様の観察、職員同士の情報交換を行い、日々、決して虐待がないよう注意を払って。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|---|---|----------------------------|---|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 12 | | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 契約書の記載内容などを契約前にご家族やご入居者などに十分説明をし、理解納得をしていただいている。 | | |
| 13 | | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 毎月第3水曜日に1回入居者会議（お茶会）開き、ご意見を頂いている。また、運営推進会議にはご入居者も参加していただき、改善を計っている。 | ※ | 担当する職員が毎回違うため、職員一人一人が内容を理解し、入居者様の要望をかなえられたり、入居者様の楽しみとなる会になるようにしていきたい。 |
| 14 | 7 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | (自己評価) 訪問や面会の都度に、ご家族に声をかけ生活状況を伝えたり、意見や不満がないかお聞きしている。生活状況の変化がある入居者様のご家族には、電話で状況報告を随時行っている。 (外部評価) 管理者は、職員を育てるという意味もあるが、家族との信頼関係を深めることを目的とした取り組みとして、家族への報告は担当職員から積極的に行うように指導しており、それが実践されている。職員により技量の差はあるが、管理者や先輩職員がフォローしている。 | ※ | 特定の職員だけでなく、出勤している職員全員が、訪問や面会に来た方に積極的に声をかけられるようにしていきたい。 |
| 15 | 8 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 運営推進会議や家族会、広報誌などのお手紙で運営状況を伝えているが、今後より信頼関係が深まれば、さらなる意見がいただけると思っている。 (外部評価) 職員やユニット長、管理者が家族に積極的に声をかけ、意見や苦情を引き出すように努めている。管理者には傾聴する姿勢があり、家族等の意見はホームの運営に反映させている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 20 | 11 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | (自己評価) グループホーム協会の相互研修に参加したり、他のデイサービスと定期的に交流し、意見交換やサービス向上に努めている。 (外部評価) 管理者は、同業者とのネットワークはホーム全体としてだけでなく個人にとっても財産と考えており、積極的に取り組んでいる。ネットワークは高齢福祉にとどまらず、知的障害者福祉、児童福祉分野へと広がりを見せている。しかし、グループホーム同士では個人的な繋がりにとどまり、公のネットワークができているとは言えない。 | ※ | 現在、地域包括支援センターで地域のグループホーム連絡会の開催が模索されている。先輩格のホームだけに、積極的な関わりを期待したい。 |
| 21 | | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | (自己評価) ビアガーデンやスポーツ大会を企画し、職場以外での職員同士の交流も深めている。 | | |
| 22 | | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | (自己評価) 人事調査表を用いて、職員個々で目標を決めてもらったり、自己評価をしてもらい、実践につなげていっている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 23 | | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | (自己評価) 家族を巻き込み相談したり、管理者や計画作成担当者だけでなく、入居者担当制により、担当職員が、個別に聴く機会を増やしている。 | | |
| 24 | | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | (自己評価) 面会の都度、入居者様の状態報告をし、ご家族様の思いを聴く機会を作っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 25 | | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) 利用相談時、満床であるため、すぐの入居ができないことをお話した上、必要性が高い方には、他の施設の紹介したり、介護保険の申請や即のサービス提供が必要な場合は、包括支援センターを紹介、医療面が必要なケースは、病院のソーシャルワーカーへの紹介を行っている。 | | |
| 26 | 12 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | (自己評価) センター方式のアセスメント表を利用したり、ご本人やご家族の思いや希望を聴き、サービスに反映させている。例えば、昔から散歩が好きであれば、散歩を日課に取り入れるなど (外部評価) 一般的に緊急の利用希望が多い。それに対応することもホームの機能としては必要であるが、管理者は職員と共に自宅等へ訪問することと、利用者と家族等の見学を必須としており、利用者が少しでもスムーズに生活できる方法を模索することに取り組んでいる。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 27 | 13 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | (自己評価) 体操や歌や趣味を活用して行っている。入居者会議などでは、思い出話、教わることもたくさんあり、不安なときに話をできる時間を作っている。 (外部評価) 職員に仕事について聞くと、「ここに来るとほっとする」と笑顔で答えられた。「利用者に自分の居場所を作ってもらっている」という状況であり、相互扶助の関係が構築されていることがうかがえる。 | | |
| 28 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) ご家族様にも、お話をさせていただいた上で、職員と一緒に歩行練習や散歩、食事介助などを行っていただきます。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|--|--|----------------------------|--|
| 29 | | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | (自己評価) より良い関係を築いていくためには、ご家族からこれまでの情報をしっかり聴き理解する必要があり、それができている職員とできていない職員があり、それにより、関係の構築支援がまだまだである。 | ※ | ご家族様に、全職員がこれまでの関係をきき、理解できるようになり、支援に生かしたい。 |
| 30 | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) ご友人やご家族に訪問していただいたり、ご入居者さまとご友人の家に訪問したりし、お話を聞かせていただいている。 | | |
| 31 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | (自己評価) お食事は、できるかぎりホールで職員、入居者様が揃って食べるようにし、3時には、呼びかけにより、体操やレクリエーションなどを実施している。 | | |
| 32 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | (自己評価) サービス契約終了後も、ご家族の家に訪問したり、手紙のやり取りがされている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 33 | 14 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 入居者会議を毎月実施し、行事やサービスの説明や一人一人の希望（したいこと、食べたい物、行きたいところ）を聴き、実施したり、担当職員が個別に思いや意向を把握している。また、日々注意深く表情や様子を観察し、わかりにくいことはご家族にも相談しています。 (外部評価) 管理者や職員の日常生活の中での聞き取りで利用者それぞれの希望や意向を把握しているが、機能低下等でそれが難しい面が現われ始めている。自己決定を補うものとして生活歴を知ることがあるが、職員の記憶と申し送りが中心となっており、共有化と均一化が図られているとまでは言えない。 | ※ | センター方式で生活歴が整理されつつあるが、全てが整っている状態ではなく、また日々の聞き取りからの書き加えも多いとは言えないので、継続しての取り組みを期待したい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------------|---|
| 34 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) センター方式のアセスメント表を利用したり、ご本人やご家族に昔どんな生活をしていたかやその時の思いを聴き、サービスに反映させている。 | | |
| 35 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | (自己評価) 日々のケアの中で、個々の入居者様の生活への参加状況などから、生活リズムや状況の把握ができています。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 36 | 15 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | (自己評価) 介護現場のみの情報交換により、具体的な計画にまで進められていないときがある。 (外部評価) 利用者ごとの担当職員が介護計画の素案を計画作成担当者と共に作り、職員全員参加のミーティングでまとめている。管理者が丁寧に職員指導を行っており、職員教育も兼ねた取り組みとなっている。運営推進会議などで地域の方にもそれとなく協力を依頼しており、介護計画作りはチームで対応するという意識が感じられる。 | ※ | 職員個々が、必要な関係者からの情報収集と相談を今以上に行い、確実に計画に生かして活かしたい。 |
| 37 | 16 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | (自己評価) 変化があった場合は、常に家族様に連絡をとり報告し、新たな計画を説明するようにしている。 (外部評価) 利用者の状態は全職員で見守っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。介護日誌にも介護計画に関する記載には番号を付けており、絶えず介護計画を意識する取り組みがある。しかし、その記載事項をデータ化することまではできていない。 | ※ | 介護日誌は利用者の状況を把握できる貴重なデータであり、介護計画の項目別に分析できる客観的なデータでもある。職員間での記載の差なども判別可能となるので、介護日誌の記録をより有効に活用することを期待したい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|--|--|----------------------------|--|
| 38 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) 介護計画を見ながらの介護記録の記入を行っている。特に入居者様の言動や行動を詳しく記入するとともに、説く返事工があれば、見直しを検討している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 39 | 17 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | (自己評価) 入居時に短期利用型のショートステイにより、利用体験をしていただいたり、ショートステイが利用可能であれば、地域の他事業所に連絡し、利用ができる体制を作っている。また、入居中の入居者様には、通院、買い物、墓参り、懐かしの人との再会など、必要な支援は柔軟に行っている。 (外部評価) 今春から短期利用型ショートステイを始めており、利用者が馴染むために体験利用などを有効に活用している。また、家族の協力が利用者の生活の質の向上には不可欠と考えているため、外出や買い物等の同行を積極的に依頼しているが、家族の支援が難しい利用者には同様のサービスが提供できるように管理者や職員が代行している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 40 | | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | (自己評価) 行事のときを中心に、専属の25名の登録ボランティア、支援していただいているNPO法人、地域ボランティア団体などと協力をしながら、支援を行っている。 | | |
| 41 | | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | (自己評価) ご本人、ご家族の希望を聞きながら、訪問看護や自費の専門的リハビリやマッサージなどのサービス導入の利用支援を行っている。 | | |
| 42 | | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | (自己評価) ホームのイベントや運営推進会議のほか、電話での連絡による介護保険サービス利用相談の連携を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------|------|--|--|----------------------------|--|
| 43 | 18 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | (自己評価) 主治医は、入居者様やご家族に選んでいただいているまた、医療連携がとれるよう内科3 医院、眼科1 医院、皮膚科泌尿器科1 医院、歯科2 医院より往診もいただいている。 (外部評価) かかりつけ医は本人や家族等の要望を優先しており、各医療機関との連絡・連携は管理者が担当している。利用者の状態に応じて専門医を確保するため、近隣の医療機関だけでなく総合病院などへも協力を依頼しており、適切な医療を受けられるよう努めている。 | | |
| 44 | | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | (自己評価) 近くの精神科に必要な方に月2回受診していただいたり、その精神科医の方に電話相談や認知症の相談にも応じていただいている。 | | |
| 45 | | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | (自己評価) 便秘や他身体症状の変化があるときなど、連絡をし相談や医師の指示がもらえるような体制が整っている。 | | |
| 46 | | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | (自己評価) 入院中は、できるだけ早く退院ができるよう、ホームでの生活状況を提供したり、面会時など病院の関係職員と情報交換を行っている。また、退院時必ず、医療情報提供書の他に介護情報の提供書も頂き、スムーズなホーム生活への復帰ができるよう配慮している。 | | |
| 47 | 19 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | (自己評価) 状態悪化や変化があった場合は、主治医より直接ご家族様に説明をいただいている。 (外部評価) ホームでは終末期（最期は病院）ケアの実践から、主治医や家族との連携の重要性を十分に承知しており、状況に応じて家族との話し合いを行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 48 | | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | (自己評価) 管理者がかかりつけ医とご家族と相談し、終末期のケアを考えた上で、職員に伝達し、職員全体で取り組んでいる。 | | |
| 49 | | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | (自己評価) 新しい環境に移った際は、職員が積極的に会話をし不安を取り除けるようにしている。また、なじみの家具や持ち物を持ち込んでもらったり、ご本人の生活習慣などのアセスメントを行なっている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 50 | 20 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない | (自己評価) 言葉かけに気をつけている。馴れ合いの言葉になっているときは、その職員が気づけるよう、声のかけあいをしている。記録などの持ち出しの際は、専用の袋に入れて持っていく、プライバシーの確保は、外部の訪問者が来た際も、配慮している。 (外部評価) 利用者への声かけは、耳元で話しかける、スキンシップを取りながら話すなど、利用者それぞれが心地よい状態で会話できるような工夫が見られる。家族の日常会話のような気安さがありながら、職員は利用者に対して目上の人として敬意を払っている。 | | |
| 51 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | (自己評価) 事柄に応じ、一つ一つその方に応じ、時間をかけ話を聞き、何回でもご本人様にお話し、理解や納得をさせていただいています。また、時々言葉の中から気づきを大切にしています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|--|--|----------------------------|--|
| 52 | 21 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 入居者様の声や意見をよく傾聴し、今何をして欲しいか、職員に何が出来るかをお聴きしています。「ちょっと待って」という言葉は、意識的に出していません。 (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者によりゆったりとした時間を過ごしてもらうことが優先されている。ただし、共同生活という基本的な部分は利用者に理解してもらえらるような関わりを行っている。 | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 53 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | (自己評価) 外出や行事の際は、おしゃれの準備をする時間を、計画の段階から考えて支援している。また、なじみの美容室に行く支援や訪問美容サービスができるようにしている。 | | |
| 54 | 22 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 入居者様の好き嫌いを把握し、取り入れたり、メニュー作りや食事の準備から入居者様と一緒に進めようとしていますが、入居者様のメニュー作りへの参加が行えていないときがある。 (外部評価) 季節の食材の話などの共通の話題に、下ごしらえをした利用者に「やっぱりおいしい」とねぎらいの言葉をかけていた。「切っただけじゃ」との返事や、「はよ食べよ」との利用者の声で和やかに食事が進んでいた。笑顔が日常的な風景であることを証明しており、豊かな時間が流れている。 | ※ | メニュー作りからの入居者様の参加をしっかりとできるようにする。 |
| 55 | | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | (自己評価) 飲酒希望の方には、ドクターと相談をしながら、決められた範囲内の飲酒を好きな日に行っています。飲み物は、冷たい飲み物が好きか熱い飲み物が好きかや、どんな飲み物が好きかを職員が把握し、提供している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|---|--|----------------------------|--|
| 56 | | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | (自己評価) その方にあった排泄用具を状況に合わせて使用できるようにし、提供している。また、できるだけ布パンツを着用できるように定期的に検討している。 | | |
| 57 | 23 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | (自己評価) 入居者様の希望にあわせた、時間や回数の調整を行いながらも、3日に一回以上の入浴ができるよう促し、努めている。 (外部評価) 入浴の時間帯は、早朝を希望する方や午後からなど、利用者の希望にある程度添うようにしている。入浴支援は、利用者と職員が対一になり信頼を深める時間であるとの認識が深く、丁寧な支援が行われている。 | | |
| 58 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | (自己評価) 不眠の方は、午前中のうちに、散歩などで屋外に出て日光に当たれるように心がけている。また、日中に体操や散歩、役割活動を行っていただき、体を動かしてもらうようにしたり、なかなか寝れない方には、ホットミルクを提供している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 59 | 24 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | (自己評価) 個々の入居者様に応じ、趣味や今までしてきた生活の役割(調理、掃除、洗濯等)を希望や身体状況に配慮しながら、積極的に参加していただき、充実感のある生活をしていただくようにしています。 (外部評価) 利用者の好みやできることについては、いろいろな方面(様式)のアセスメントからよく把握している。時に「気晴らし」は共同生活が基本のホームでは、個々の生活を保持するために重要であると管理者は考え、園芸療法、音楽療法、演芸など多種多様に実践している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------|------|--|--|----------------------------|--|
| 60 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) ご家族様と相談し、ご本人さまが少額ですが管理をしていただき、買い物などの際、ご自分の財布からお支払いしていただいています。欲しいものがあれば、できるだけご本人も一緒に買い物に行ってもらっています。 | | |
| 61 | 25 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | (自己評価) ケアプランに組み込んだ散歩や買い物のほか、天気良かったり、行きたいときに状況に応じ、戸外にいけるよう支援しています。 (外部評価) 住宅地の一角にあるという立地条件から、散歩などに気軽に対応している。ごみ出しや庭いじりなどでも外気を感じることができるため、少しでも屋外に出られるよう支援している。 | | |
| 62 | | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | (自己評価) 入居者様の行きたいという要望を聞き、そこへ行く企画をたてたり、ご家族様を巻き込み、一緒に行けるように支援しています。 | | |
| 63 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | (自己評価) 希望があれば、ご本人と電話をかけたたり、手紙を出される際は、できない部分をお手伝いし、やり取りを支援しています。外部からご本人宛に頂き物やお手紙をいただいた際は、お返事やお礼の手紙などを出されないか、ご本人に声をかけている。 | | |
| 64 | | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | (自己評価) 訪問された方には、必ず飲み物をお出しして、入居者様の様子をお話したり、ご本人がお一人で話すのが難しい場合には、そばに寄り添い支援しています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|------|---|--|----------------------------|--|
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 65 | | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価) 新人研修や内部の勉強会を通じ学び、身体拘束がないケアに取り組んでいます。 | | |
| 66 | 26 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | (自己評価) 日中鍵をかけることはありません。玄関は、ご入居者様が出入りしやすいよう開放しています。 (外部評価) 職員の見守りが基本のケアを実践しており、玄関入口は夜間の防犯以外には鍵は掛けられていない。 | | |
| 67 | | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | (自己評価) 目配り、気配りをしっかり行い、転倒などがないように、入居者様が、どこで何をしているか把握できるよう努めている。 | | |
| 68 | | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | (自己評価) その方に応じ、誤認や使用方法の間違えや使用時のミスがないよう気を配りながら、包丁やその他の危険物品の使用をしてもらっている。 | | |
| 69 | | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | (自己評価) 事故報告書、ヒヤリハットを活用し、事故マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにし、また、報告書などは、申し送り、職員会やファイルにて閲覧してもらい事故防止に努めている。また、対策を職員で話し合い、ケアプランに追加するようにしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 70 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | (自己評価) 勉強会を開き、シュミレーションをしたり、急変して対応をした際は、その都度、申し送りなどで対応方法を周知している。また、職員は、救命救急法を毎年受講している。 | | |
| 71 | 27 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | (自己評価) 地域の方に参加や協力をさせていただきながら、消防訓練を実施している。 (外部評価) 消防署と連携しての避難訓練や近隣住民との話し合いなどを行い、ホーム単独でなく、地域を交えて災害対策に取り組んでいる | | |
| 72 | | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | (自己評価) リスクの高い方やヒヤリハット、事故報告書の提出があった方は、危険性と対応などをご家族やご本人に説明し、記録に残している。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 73 | | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | (自己評価) 毎朝に全員のバイタルチェックを必ず行い、必要な方には、期間を定め一日2検、3検、4検とバイタルチェックを行っている。週に2回ドクターに往診をしていただき、それ以外にも変化があれば、受診や電話相談をしていただいている。また、その状態はご家族に報告している。 | | |
| 74 | | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 準備時に2度の確認を行い、配薬時は、服薬チェック板を利用し、もって行く前、飲んでもらう前、飲んだ後の3回以上、「名前、日付、服用時間」を職員が声だし確認を行うと同時に、入居者様にも薬の袋を見せ確認してもらっている。また、薬を口に含んだ後も、飲み込むまで確認している。行事の際は、服薬責任者を設けている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------|------|---|---|----------------------------|--|
| 75 | | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | (自己評価) 一日一回の体操や細やかな水分補給を行っている。一人一人の状況に応じた便薬を準備している。また、便秘時は、薬に頼らないよう繊維質の食物をとっていただいたり、センナ茶の飲用やマッサージをおこなっている。 | | |
| 76 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | (自己評価) 毎食時、全員の口腔ケアを行っている。歯科衛生士に訪問指導を定期的に受けている。その人に応じ、ブラッシングだけでなく、フロッシングやバス法での介助ケアを行ったりしている。義歯の方は、全員毎夜にセラコートによる義歯洗浄を行っている。 | | |
| 77 | 28 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 糖尿病の方には、主食でカロリー調整を行ったり、血圧や浮腫の状況により、減塩にし提供している。義歯の方には、必要に応じファストンを塗布し、噛むことへの支援につなげている。入居者様の好みのもの、季節、旬のものを積極的に食事に取り入れている。 (外部評価) 大まかなカロリーを把握し、栄養バランスに配慮した食事を提供している。利用者の状態によっては刻み食にしたり、量の調整をするなどしている。摂取量については食事、水分共に日誌に記入して見守り、摂取の少ない傾向の利用者にはおやつなどで補うようにしている。 | | |
| 78 | | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等） | (自己評価) マニュアルを作成し、外出、訪問、面会、調理、食事など、手洗い消毒を徹底し、空気清浄機も全室に取り付けたり、食器は、乾燥機にて毎食消毒、まな板は、その都度と毎夜にハイター、熱湯にて消毒し、タオルは、個人タオルを使用し、毎夜消毒乾燥をするなど、感染予防に努めている。また、期間を限定した、感染対策の強化も行っている。 | | |
| 79 | | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | (自己評価) 健康栄養委員を中心に、生もの、野菜は、賞味期限を守り、衛生に務めている。毎月職員が交代で、冷蔵庫の管理責任者を定めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 80 | | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | (自己評価) 玄関にはお花を飾り、段差のない出入り口は、ベンチやソファなどを多く配置し、一時休憩ができたり、車いすでの出入りも可能にしている。 | | |
| 81 | 29 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) リビングには、季節感のある飾りつけ（夏には風鈴や秋には、干し柿をみんなで作り飾ったり）季節の歌を歌っています。飾りは、入居者様と一緒に飾っています。 (外部評価) 共用空間を、家具の配置でダイニングとリビングに区切り、生活のシーンでうまく使い分けている。また、小上がりになっている畳スペースもある。壁には利用者の写真や作品が飾られているが、適所に配されているのでインテリアとして部屋に馴染んでいる。南側の大きな窓からの陽射しはとても心地よい。 | | |
| 82 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | (自己評価) リビングの席は、自然と気の合う方がグループを作り座っています。トラブルがないよう、職員がその行動などに気を配っています。 | | |
| 83 | 30 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 居室やリビングに、ご本人の使い慣れた家具を持ち込み使用しています。時々、職員と一緒に部屋の整理や模様替えをしています。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 84 | | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | (自己評価) 空気調整機が各居室にあり、天気の良い日は、毎日4回以上の換気を時間を決めて行っています。湿温度計をリビングなどに置き、横に好ましい湿温度がわかるよう職員が手作りで、表示しています。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | | |
| 85 | | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | (自己評価) 建物内部もバリアフリーになっていて、その方に応じた椅子や車椅子、ポータブルトイレ、入浴の椅子が使用できたり、工夫しています。 | | |
| 86 | | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | (自己評価) 落ち着いた話を聞き、その方のわかる力を理解しながら、ケアを行なっている。 | | |
| 87 | | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | (自己評価) ホーム庭には、持ち上げ式花壇（レイズベッド）を置き、庭やベランダに花や野菜を植え、水遣りや草引きも一緒にしていただいている。また、パラソルを置き、外でお茶や談話ができるようにしています。 | | |

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

| V. サービスの成果に関する項目 | | | |
|------------------|---|---|---|
| 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと) | 判断した具体的根拠 | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | 1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない | 担当制で、各担当職員に任せている面があり、向き合えていない職員の入居者様の思いや願い、意向の把握にばらつきがあり、全職員が入居者様と向き合えるよう努力している段階にあるため。 |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 1 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない | その日の生活状況により、ホールに人が少ないときには、ゆっくり話を聞けたり、過ごせていない時もあるため。 |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | その方の希望に応じて、居室で過ごしたり、玄関やホールで過ごしたりの時間が設けられている。 |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | 1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | お手伝いや役割活動など、その都度に声かけをし、実施している。 |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 全入居者様の希望を聞き、散歩などの戸外に出かけられている。 |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている | ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 毎日のバイタルチェックや状態観察の他、かかりつけ医が2週間に1回往診があり、急変時の対応もできている。 |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | 1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 欲しいものがあり、買い物に行きたいときは、できるだけ一緒に言っていただき、また、行けないときは、担当職員などが代わりに行き、安心していただいている。 |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく | 1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない | それぞれの入居者様に各担当職員がついており、ご家族とも |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない | ほぼ毎日、入居者様のご家族の訪問があり、近所の方も、毎日挨拶や会話をしたり、野菜を持ってきていただいたりする。 |

| 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと) | 判断した具体的根拠 |
|-----|---|---|--|
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない | 年々、運営推進会議やイベントを通じて、理解していただいている言葉やアンケートが増えている。 |
| 98 | 職員は、活き活きと働いている | (自己 1 ほぼ全ての職員が 評価) ② 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 行事や委員会、会議が多く、時には大変なときもあり、気分がさがっエチル時もあると思います。 |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | (自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 今すぐこうしたいと思っても、業務上すぐには難しく、待って頂いているときもあるため。 |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | (自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない | 気をつかわれて、聞いても話されにくいと感じることがあり、信頼関係を深めている最中であるため。 |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・近くの託児所や知的障害者デイとの定期交流を行っています。そうめん流しや夕涼み会、お祭りのししまい、餅つきなどの行事を利用して、たくさんの地域の方との交流を図っています。・音楽療法（生活委員を中心に、ケアプランのひとつとして、月に1回1時間30分、中四国音楽療法士会の音楽療法士による音楽療法を実施しています。単にピアノ演奏を聴くだけでなく、季節にあった歌や思い出の曲、リクエスト曲を入居者様と一緒に歌いながら運動することで、身体機能向上や発声による肺活量維持や誤嚥防止、回想法や記憶の想起力維持などにつなげています。また、1階2階の全入居者様が参加しているため、お互いの交流の場にもなっています。この音楽療法士の訪問は、職員も一緒に学ぶ場にもなっており、日々のレクリエーションや音楽療法に取り込めるよう努力しています。）・園芸（環境委員を中心に、東京の園芸療法士のプログラムを参考に、持ち上げ式花壇（レイズベッド）を手作りしてもらい、街中にあるお花やさんに訪問による指導をしてもらいながら、お花の好きな入居者様の楽しみとして、野菜やお花を育てています。）・入居者会議（広報委員を中心に、毎月第3水曜日に、担当職員を決め、ホーム生活における伝達事項や相談、各入居者様の要望（例えば、今、食べたい食事や今、行きたい場所、今、困っている事）などを聴き、その要望にこたえるためにどうすればいいか、お互いに話し合いをし、職員会で内容の検討をし、実施できるよう次回につなげています。）

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームいしい

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)
氏名 小椋 真吾

評価完了日 平成 20 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | (自己評価) 期間を決め朝のミーティングで唱和したり、スタッフルームなどに掲示している。それぞれが、理念の具体化を勉強会などを通じ行い、6ヶ月に一回程度定期的に話し合いを行っている。 (外部評価) 理念の中には地域という言葉はないが、運営者が「地域貢献」という思いでホームを開設しているため、管理者や職員は地域を包括的に捉えており、理念の基礎には「地域と共に」という概念を感じるができる。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | (自己評価) 理念については、全職員が言えるようにしている。人事考査や勉強会にて、個々の考える具体的理念や仕事でどのように生かしているかを言ってもらい、話し合いを行っている。 (外部評価) 管理者は職員との日々の関わりを大事にしており、ちょっとした立ち話でも、底辺に理念を持った指導をしている。職員も振り返りのきっかけになっていると実感しており、地道ではあるが着実に取り組んでいる。 | | |
| 3 | | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | (自己評価) 広報誌や家族会、運営推進会議、入居者会議や日々の生活の中で、理解していただけるよう取り組んでいる。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 4 | | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | (自己評価) ホーム内での行事には気軽に参加していただけるようチラシを配り、広報するなどし取り組んでいる。出退勤時、散歩など笑顔であいさつを心がけている。ホームでのパンを販売にも、地域の方がきていただいたり、消防訓練に参加していただいたり、菊やお花の栽培のお話を教えてもらったりしている。 | | |
| 5 | 3 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | (自己評価) 地域の町内清掃、盆踊り、運動会に参加したり、地域の方が、夕涼み会などのホーム行事に参加して交流を図っている。 (外部評価) 管理者も職員も「交流」と「つきあい」の定義を理解しており、利用者が地域住民として「つきあい」ができることに力を入れている。肩に力を入れず、普段着の付き合いを意識しており、地域の枠組みを自治会の規模と捉えている。 | ※ | 行事などを通し、地域の方々との関係を深め、理解を求めたい。 |
| 6 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | (自己評価) 定期的に話し合いを行い、行事には、地域の方を招待して、交流している。地域のゴミステーションの清掃をお手伝いしている。地域の認知症高齢者の一時利用や依頼があれば訪問を行う。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 7 | 4 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | (自己評価) 改善項目を理解して、職員会や委員会、入居者会議などの際に話し合いを行い、施設改善に取り組んでいる。 (外部評価) 自己評価は職員間で話し合い、ユニット長がまとめている。管理者はまとめたものをそのまま受け入れており、職員は自分たちのケアの振り返りに有効に活用している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------|------|---|--|----------------------------|--|
| 8 | 5 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | (自己評価) 運営推進会議にて、情報交換や意見交換を行ったり、ご家族に意見を頂き、頂いた情報などは、職員会、勉強会などで、話し合い、サービス改善に生かしている。独自の評価表を運営推進会議のメンバーやご家族に付けていただき、意見も取り入れている。 (外部評価) 運営推進会議には運営者も積極的に参加しており、参加者からの声に耳を傾けている。会議が近隣住民との話し合いの場としても有効に機能している。会議への参加者の多さには目を見張るものがあり、地区の公民館も利用している点などから、地域に溶け込んだ会議となっていることがうかがえる。 | ※ | 運営推進会議のメンバーにホーム独自の評価項目を記入した評価表にて評価をしていただいたが、意見が少なかつたため、次回は内容を改善していきたい。 |
| 9 | 6 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | (自己評価) そうめん流しなどの行事に来ていただき、ホーム内を見ていただいている。また、生活福祉課の担当の方にも必要時こちらから連絡し、訪問をしていただき、直接に入居者様とも話をさせていただいている。 (外部評価) 市担当者にはホーム行事への参加を促し、利用者と直接話す場を作っている。管理者も市役所を訪れた際には担当課に挨拶に伺うなど、積極的に行き来できるよう取り組んでいる。 | | |
| 10 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | (自己評価) 職員勉強会で周知し、フォローアップで資料配布をし、地域福祉権利擁護事業と後見人制度の違いが説明できるよう自己学習をしてもらっている。県社会福祉協議会に個別で相談に行き、必要な方の利用相談に応じている。入居者も内容を理解した上で、費用面から利用に至っていない。 | | |
| 11 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 職員勉強会にて虐待防止などを学び、入居者様の観察、職員同士の情報交換を行い、日々、決して虐待がないよう注意を払って。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|---|---|----------------------------|---|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 12 | | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 契約書の記載内容などを契約前にご家族やご入居者などに十分説明をし、理解納得をしていただき、ホームが住みやすい環境であると思っただけよう努めている。 | | |
| 13 | | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 毎月第3水曜日に1回入居者会議（お茶会）開き、ご意見を頂き、その意見を実現できるよう努めている。また、運営推進会議にはご入居者も参加していただき、改善を計っている。 | | |
| 14 | 7 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | (自己評価) 訪問や面会の都度に、ご家族に声をかけ生活状況を伝えたり、意見や不満がないかお聞きしている。生活状況の変化がある入居者様のご家族には、電話で状況報告を随時行っている。 | ※ | ご家族の都合もあるが、面会の機会を増やせるよう、担当職員より積極的に声をかけたり、状況報告ができるようにする。 |
| | | | (外部評価) 管理者は、職員を育てるという意味もあるが、家族との信頼関係を深めることを目的とした取り組みとして、家族への報告は担当職員から積極的に行うように指導しており、それが実践されている。職員により技量の差はあるが、管理者や先輩職員がフォローしている。 | | |
| 15 | 8 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 家族会、運営推進会議、行事の機会を活用したり、その際に近所の方々との交流を大切に、意見交換などを行っている。 | ※ | 行事などの参加時に、民生委員さんや近所の方も参加していただいているため、今以上にご家族との交流ができるよう、職員が仲介に入り、関係を深められるようにする。 |
| | | | (外部評価) 職員やユニット長、管理者が家族に積極的に声をかけ、意見や苦情を引き出すように努めている。管理者には傾聴する姿勢があり、家族等の意見はホームの運営に反映させている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------------|--|
| 20 | 11 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | (自己評価) 知的障害者のデイや託児所の職員との交流を通じた話し合いを行ったり、グループホーム協会の相互研修に参加したりし、福祉同業者との意見交換やサービス向上に努めている。 (外部評価) 管理者は、同業者とのネットワークはホーム全体としてだけでなく個人にとっても財産と考えており、積極的に取り組んでいる。ネットワークは高齢福祉にとどまらず、知的障害者福祉、児童福祉分野へと広がりを見せている。しかし、グループホーム同士では個人的な繋がりにとどまり、公のネットワークができていない。 | ※ | 現在、地域包括支援センターで地域のグループホーム連絡会の開催が模索されている。先輩格のホームだけに、積極的な関わりを期待したい。 |
| 21 | | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | (自己評価) 分からないことなどは、お互いの職員に聞ける体制にある。また、ビアガーデンやスポーツ大会を企画し、職場以外での職員同士の交流も深めている。 | | |
| 22 | | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | (自己評価) 全職員は、3つの理念を強く意識して仕事に取り組んでいる。人事考査表を用いて、職員個々で目標を決めてもらったり、自己評価をしてもらい、実践につなげていっている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 23 | | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | (自己評価) 短期利用型ショートステイなどを活用し、入居前より、体験入居や訪問により情報収集をしっかり行い、事前に職員にその方のことをしてもらったり、情報提供ができるようにしている。 | | |
| 24 | | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | (自己評価) 入居前に、訪問や来所してもらい現状や状況をよく聴取し、一緒に課題解決のための方法を模索するようにしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 25 | | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) 利用相談時、満床であるため、すぐの入居ができないことをお話した上、必要性が高い方には、他の施設の紹介したり、介護保険の申請や即のサービス提供が必要な場合は、包括支援センターを紹介、医療面が必要なケースは、病院のソーシャルワーカーへの紹介を行っている。 | | |
| 26 | 12 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | (自己評価) 担当職員を中心に職員とご本人との話し合いの場をたくさん持ち、少しずつ心が解け合い馴染めるように心がけている。すぐに入居でなく、通所や体験入居、訪問を実施している。 (外部評価) 一般的に緊急の利用希望が多い。それに対応することもホームの機能としては必要であるが、管理者は職員と共に自宅等へ訪問することと、利用者と家族等の見学を必須としており、利用者が少しでもスムーズに生活できる方法を模索することに取り組んでいる。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 27 | 13 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | (自己評価) その方のできること、したいこと等を職員と一緒にを行い、相互扶助で助け合いながら、良好な関係を築いている。 (外部評価) 職員に仕事について聞くと、「ここに来るとほっとする」と笑顔で答えられた。「利用者に自分の居場所を作ってもらっている」という状況であり、相互扶助の関係が構築されていることがうかがえる。 | | |
| 28 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) より良い関係を築いていくためには、ご家族の方にも参加していただき、喜怒哀楽を共感していただけるよう、ご本人を支えていける関係作りを支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 29 | | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | (自己評価) 入居者様とご家族がなるべく一緒に時間を過ごしてもらえるよう、行事の時等は、できるだけ参加していただいている。 | | |
| 30 | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) なじみの関係が途切れないよう、ご家族様にも協力してもらい、ホームに訪問していただいたり、ご入居者さまと職員と一緒に訪問したりしている。 | | |
| 31 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | (自己評価) 入居者様同士の助け合いや声かけをする場面が、日常生活において多く見られる。また、関係が良い状態であるよう職員が仲介し、関係維持に努めている。 | | |
| 32 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | (自己評価) サービス契約終了後も、ご家族と連絡をとるなど、つきあいを大切にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 33 | 14 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 把握するアセスメントシートなどで、入居者会議やカンファレンスにて担当者を中心に一人一人の思い、意見交換を行っている。 (外部評価) 管理者や職員の日常生活の中での聞き取りで利用者それぞれの希望や意向を把握しているが、機能低下等でそれが難しい面が現われ始めている。自己決定を補うものとして生活歴を知ることがあるが、職員の記憶と申し送りが中心となっており、共有化と均一化が図られているとまでは言えない。 | ※ | センター方式で生活歴が整理されつつあるが、全てが整っている状態ではなく、また日々の聞き取りからの書き加えも多いとは言えないので、継続しての取り組みを期待したい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|------|---|--|----------------------------|---|
| 34 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 在宅や入院でサービスを利用されていた方は、情報提供書も参考にし、また、入居後は、センター方式のアセスメント表を活用し、それを元に作成されたケアプランに沿いケアを行っている。 | ※ | 職員同士やご家族様との情報交換を今以上に行えるようにしたい。 |
| 35 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | (自己評価) 入居者様の状態、表情、しぐさや態度、言葉を各職員が観察することで、現状を把握し、職員同士が声をかけあい情報共有に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 36 | 15 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | (自己評価) 職員会や勉強会で話し合った内容を参考に、カンファレンスをユニットで行う。その内容を元にケアプラン担当とケアマネが原案を作成後、ご家族、本人と話し合い、介護計画を修正しながら作成している。 (外部評価) 利用者ごとの担当職員が介護計画の素案を計画作成担当者と共に作り、職員全員参加のミーティングでまとめている。管理者が丁寧に職員指導を行っており、職員教育も兼ねた取り組みとなっている。運営推進会議などで地域の方にもそれとなく協力を依頼しており、介護計画作りはチームで対応するという意識が感じられる。 | ※ | 職員会、勉強会、カンファレンスへの参加が、増えるよう職員個々のモチベーションや必要性の認識を高めていきたい。 |
| 37 | 16 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | (自己評価) 変化があった場合は、常に家族様に連絡をとり報告し、新たな計画を説明するようにしている。変更した内容は、ケアプランだけでなく、各ユニットの申し送りノートにも記入したり、申し送りファイルを活用し、職員が把握している。 (外部評価) 利用者の状態は全職員で見守っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。介護日誌にも介護計画に関する記載には番号を付けており、絶えず介護計画を意識する取り組みがある。しかし、その記載事項をデータ化することまではできていない。 | ※ | 介護日誌は利用者の状況を把握できる貴重なデータであり、介護計画の項目別に分析できる客観的なデータでもある。職員間での記載の差なども判別可能となるので、介護日誌の記録をより有効に活用することを期待したい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|--|--|----------------------------|--|
| 38 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) 介護計画を見ながらの介護記録の記入を行い、日々の様子や気づきも記入している。介護記録への記入内容が、ケアプラン見直しに活かされている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 39 | 17 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | (自己評価) 入居時に短期利用型のショートステイにより、利用体験をしていただいたり、ショートステイが利用可能であれば、地域の他事業所に連絡し、利用ができる体制を作っている。また、入居中の入居者様には、通院、買い物、墓参り、懐かしの人との再会など、必要な支援は柔軟に行っている。 (外部評価) 今春から短期利用型ショートステイを始めており、利用者が馴染むために体験利用などを有効に活用している。また、家族の協力が利用者の生活の質の向上には不可欠と考えているため、外出や買い物等の同行を積極的に依頼しているが、家族の支援が難しい利用者には同様のサービスが提供できるように管理者や職員が代行している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 40 | | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | (自己評価) イベントのときは、運営推進会議で呼びかけを行い、メンバーに参加していただいたり、また、行事のときを中心に、専属の25名の登録ボランティア、支援していただいているNPO法人、地域ボランティア団体などと協力をしながら、支援を行っている。 | | |
| 41 | | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | (自己評価) ご本人、ご家族の意向や必要性に応じて、主治医に相談したり、訪問看護や自費の専門的リハビリやマッサージなどのサービス導入の利用支援を行っている。音楽療法士による音楽療法の提供をしたり、公民館行事も活用している。 | | |
| 42 | | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | (自己評価) 当事業所に対処が難しいケースについては、必要に応じて随時相談し、協力していただいている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------|------|--|--|----------------------------|--|
| 43 | 18 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | (自己評価) 主治医とは、入居者様やご家族に選んでいただいている また、医療連携がとれるよう内科3医院、眼科1医院、皮膚科泌尿器科1医院、歯科2医院より往診もしていただいている。電話相談や随時往診もしていただいている。 <hr/> (外部評価) かかりつけ医は本人や家族等の要望を優先しており、各医療機関との連絡・連携は管理者が担当している。利用者の状態に応じて専門医を確保するため、近隣の医療機関だけでなく総合病院などへも協力を依頼しており、適切な医療を受けられるよう努めている。 | | |
| 44 | | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | (自己評価) 近くの精神科に必要な方に月2回受診していただいたり、その精神科医の方に電話相談や認知症の相談にも応じていただいている。状況により、電話による薬の調整もしていただいている。 | | |
| 45 | | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | (自己評価) 急な症状変化があれば、電話による相談や対応をしていただいたり、訪問も必要により随時行っていただいている。職員やホーム入居者も看護婦さんと顔なじみになっている。 | | |
| 46 | | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | (自己評価) 入院中は、できるだけ早く退院ができるよう、ホームでの生活状況を提供したり、職員が交代でお見舞いに行き、病院の関係職員と情報交換を行っている。また、退院時必ず、医療情報提供書の他に介護情報の提供書も頂き、スムーズなホーム生活への復帰ができるよう配慮している。 | | |
| 47 | 19 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | (自己評価) 状態悪化や変化があった場合は、主治医より直接ご家族様に説明をいただいている。看取りに関しても、入居時や早い段階でご家族とも話をしている。 <hr/> (外部評価) ホームでは終末期（最期は病院）ケアの実践から、主治医や家族との連携の重要性を十分に承知しており、状況に応じて家族との話し合いを行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|---|--|----------------------------|--|
| 48 | | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | (自己評価) がっかりつけ医とご家族と連携し、早め早めの対応を心がけている。職員同士は、確実な申し送りで、情報を共有し、ドクターには、日々の変化を電話で報告したり、往診の時に、紙にまとめて記入し、報告を密にしている。 | | |
| 49 | | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | (自己評価) 入居前に、ご本人様が住んでいた場所の写真を職員が見たり、状態、性格、その方の癖や好き嫌いなどの情報を事前に共有している。また、なじみの家具や持ち物を持ち込んでもらっている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 50 | 20 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | (自己評価) プライバシーに関わる話をするときは、居室に移動して頂き行ったり、介護記録にも貴人情報を載せないようにしている。 (外部評価) 利用者への声かけは、耳で話しかける、スキンシップを取りながら話すなど、利用者それぞれが心地よい状態で会話できるような工夫が見られる。家族の日常会話のような気安さがありながら、職員は利用者に対して目上の人として敬意を払っている。 | ※ | もし、少しでも入居者様に配慮のない言葉かけをしていたら、すぐに職員が対応し、改善が図れるように徹底する。 |
| 51 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | (自己評価) 月に1回の入居者会議を用いて、希望を多く取り入れるようにしてるほか、担当職員が個別に、話を聞き対応できるようにしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|---|--|----------------------------|---|
| 52 | 21 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) ケアプランに沿って、それぞれにあった生活を優先し、できるだけ満足に行く充実した生活をして頂いている。 (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者によりゆったりとした時間を過ごしてもらうことが優先されている。ただし、共同生活という基本的な部分は利用者に理解してもらえようような関わりを行っている。 | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 53 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | (自己評価) 本人が行きたいと思う、美容室など行きなれた外出や行事の際は、おしゃれの準備をする時間を、計画の段階から考えて支援している。また、なじみの美容室に行く支援や訪問美容サービスができるようにしている。 | | |
| 54 | 22 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 入居者様の好き嫌いをいつでも見れるところに張り、飲み物も「熱いものもいいか、冷たいものもいいか、どんな飲み物が好きか」などを把握している。食べれない物等は、代替食を提供している。また、入居者様と職員が、準備の野菜霧なども手分けをし行っていたり、下膳や食器洗いなども一緒に行っている。 (外部評価) 季節の食材の話などの共通の話題に、下ごしらえをした利用者に「やっぱりおいしい」とねぎらいの言葉をかけていた。「切っただけじゃ」との返事や、「はよ食べよ」との利用者の声で和やかに食事が進んでいた。笑顔が日常的な風景であることを証明しており、豊かな時間が流れている。 | ※ | メニュー作りからの入居者様の参加をしっかりとできるようにする。 |
| 55 | | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | (自己評価) 飲酒希望の方には、ドクターと相談をしながら、決められた範囲内の飲酒を好きな日に行っています。担当職員を中心に、嗜好の把握をしています。 | ※ | おやつ時には、昔に入居者様が、好んで食べていたもの(行きつけの店の食べ物やお菓子など)などを意識して、提供できるようにしたい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 56 | | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | (自己評価) その方にあった排泄用具を状況に合わせて使用できるようにし、提供している。また、必要な方に期間を決めて、排泄のチェック表を利用したり、できるだけ布パンツを着用できるよう定期的に検討している。 | | |
| 57 | 23 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | (自己評価) 入居者様の希望にあわせ、早朝入浴をされている方もいらっしゃる。転倒しないようにや、その方が入浴を楽しめるよう、適切な入浴具や入浴剤などを活用している。時間や回数調整を行いながらも、3日に一回以上の入浴ができるよう促し、努めている。 (外部評価) 入浴の時間帯は、早朝を希望する方や午後からなど、利用者の希望にある程度添うようにしている。入浴支援は、利用者と職員が対一になり信頼を深める時間であるとの認識が深く、丁寧な支援が行われている。 | | |
| 58 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | (自己評価) 夜中に眠れない方が居たら、しばらく職員が話し相手をしたり、リビングで一緒にテレビなどを見たりすることで、精神的にも落ち着いていただき、入眠誘導をしている。また、日中は、体操や散歩、役割活動を行っていただき、体を動かしていただいている。その方に応じ、ホットミルクを提供している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 59 | 24 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | (自己評価) 趣味や生活歴を生かし、料理が好きな方には、食事作りを、お花が好きな方には、お花屋さんや協力し園芸療法を、音楽が好きな方には、音楽療法士に協力していただき、音楽療法の提供などを個々に応じて行っている。 (外部評価) 利用者の好みやできることについては、いろいろな方面(様式)のアセスメントからよく把握している。時に「気晴らし」は共同生活が基本のホームでは、個々の生活を保持するために重要であると管理者は考え、園芸療法、音楽療法、演芸など多種多様に実践している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------|------|--|---|----------------------------|--|
| 60 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) ご家族様と相談し、ご本人さまが少額ですが管理をしていただき、買い物などの際、ご自分の財布からお支払いしていただいています。欲しいものがあれば、できるだけご本人も一緒に買い物に行ってもらっています。 | | |
| 61 | 25 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | (自己評価) ケアプランに組み込み、毎朝お花の水遣りをされる人が居たり、毎午前に歩行練習で、町内を回る人が居るなど、その方に応じた戸外での活動を行っている。また、天気の良い日は、積極的に戸外にいけるよう支援しています。 (外部評価) 住宅地の一角にあるという立地条件から、散歩などに気軽に対応している。ごみ出しや庭いじりなどでも外気を感じることができ、少しでも屋外に出られるよう支援している。 | | |
| 62 | | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | (自己評価) 毎月の入居者会議で、そのときに外出をしたい要望を聞き、そこへ行く企画をたてたり、ご家族様を巻き込み、一緒に行けるように支援しています。 | | |
| 63 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 時節にお手紙をだしたり、ご家族に電話したりする支援を職員が個別に行っている。 | | |
| 64 | | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | (自己評価) 日常的に電話や手紙などで、来訪していただけるよう声をかけたり、行事や外出時も、ご家族など一緒になり、関係支援を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|------|---|--|----------------------------|--|
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 65 | | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価) 新人研修や内部の勉強会を通じ学び、言葉を含めた身体拘束に対して理解したうえで、ケアに取り組んでいます。 | | |
| 66 | 26 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | (自己評価) 日中鍵をかけることはありません。玄関は、ご入居者様が出入りしやすいよう開放しています。 (外部評価) 職員の見守りが基本のケアを実践しており、玄関入口は夜間の防犯以外には鍵は掛けられていない。 | | |
| 67 | | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | (自己評価) 職員同士の視認や声かけによる連携、また、一階に降りられたり、お庭にいかれた際は、内線を使い、一階の職員に協力をしてもらったり、一緒につく事ができなければ、時間を決めて所在把握をしている。 | | |
| 68 | | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | (自己評価) その方に応じ、誤認や使用方法の間違えや使用時のミスがないよう気を配りながら、包丁やその他の危険物品の使用をしてもらっている。 | | |
| 69 | | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | (自己評価) 事故報告書、ヒヤリハットを活用し、事故マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにし、また、報告書などは、申し送り、職員会やファイルにて閲覧してもらい事故防止に努めている。また、対策を職員で話し合い、ケアプランに追加するようにしている。 | ※ | 何回でも、勉強会を繰り返し、さらなる対策や話し合いが必要である。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 70 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | (自己評価) マニュアルをいつでも確認し、職員が講習や勉強会に進んで参加し、知識を身に付けている。また、勉強会では、シュミレーションをしたり、急変をして対応した際は、その都度、申し送りなどで対応方法を周知している。また、職員は、救命救急法を毎年受講している。 | | |
| 71 | 27 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | (自己評価) 消防訓練の消火訓練などすべての訓練に、入居者様、ご家族、地域の方に参加や協力をしていただきながら、消防訓練を実施している。 (外部評価) 消防署と連携しての避難訓練や近隣住民との話し合いなどを行い、ホーム単独でなく、地域を交えて災害対策に取り組んでいる | | |
| 72 | | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | (自己評価) リスクの高い方やヒヤリハットや事故報告書の提出があった方は、危険性と対応などをご家族やご本人に説明し、記録に残している。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 73 | | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | (自己評価) 毎朝に全員のバイタルチェックをケアプランに基づき行い、必要な方には、期間を定め一日2検、3検、4検とバイタルチェックを行っている。週に2回ドクターに往診があり、報告したり、変化があれば、受診や電話相談をしていただいている。また、その状態はご家族に報告している。 | | |
| 74 | | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 職員が入居者様一人一人の服薬内容や病状を把握しており、入居者様に何か質問されたら、しっかり答えたり、説明ができるようにしている。(全職員が、往診時につき、ドクターへ状況説明を行っているため) また、もし分からないことであっても、連携している薬局の薬剤師(月3回以上訪問あり。)や看護師、ドクターに聞き、説明できている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------|------|---|--|----------------------------|--|
| 75 | | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | (自己評価) 毎朝、排便の確認を夜勤者や本人へ行い、早めにマッサージやセンナ茶、フルーツにて、便秘にならないよう対応を心がけている。 | | |
| 76 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | (自己評価) 毎食時、全員の口腔ケアを行っている。歯科衛生士に訪問指導を定期的に受けている。その人に応じ、ブラッシングだけでなく、フロッシングやパス法での介助ケアを行ったりしている。義歯の方は、全員毎夜にセラコートによる義歯洗浄を行っている。 | | |
| 77 | 28 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) ドクターと相談をしながら、一人一人に適した量や食事形態を確保している。糖尿の方でお菓みに制限がある方にも、好きなお菓子を好きなきときに提供できるよう、週ごとのカロリーを計算しながら提供している。 (外部評価) 大まかなカロリーを把握し、栄養バランスに配慮した食事を提供している。利用者の状態によっては刻み食にしたり、量の調整をするなどしている。摂取量については食事、水分共に日誌に記入して見守り、摂取の少ない傾向の利用者にはおやつなどで補うようにしている。 | | |
| 78 | | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等） | (自己評価) 感染症に対する独自の対策やマニュアルを作成を健康栄養委員会を中心におこなっている。（手洗い、手袋着脱チェックや期間を限定した感染対策強化など） | | |
| 79 | | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | (自己評価) 健康栄養委員会を中心に、居室の食べ物の管理を行い、食器は、乾燥機を利用し、まな板等は、ハイターなど利用し、衛生管理に留意している。毎月職員が交代で、冷蔵庫の管理責任者を定めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 80 | | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | (自己評価) 玄関にはお花を飾り、段差のない出入り口は、ベンチやソファなどを多く配置し、一時休憩ができたり、車いすでの出入りも可能にしている。 | | |
| 81 | 29 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) リビングには、季節感のある飾りつけ（夏には風鈴や冬には、切干大根や秋には、干し柿をみんなで作り飾ったり）を環境委員を中心に、入居者様と一緒にしています。 (外部評価) 共用空間を、家具の配置でダイニングとリビングに区切り、生活のシーンでうまく使い分けている。また、小上がりになっている畳スペースもある。壁には利用者の写真や作品が飾られているが、適所に配されているのでインテリアとして部屋に馴染んでいる。南側の大きな窓からの陽射しはとても心地よい。 | | |
| 82 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | (自己評価) リビングは、自由な空間にしています。入居者様の関係が良好であるよう、職員が気を配ってます。 | | |
| 83 | 30 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 居室やリビングに、ご本人の気に入ったものや使い慣れた家具を持ち込み使用し、居心地よく過ごせています。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------|------|--|--|----------------------------|--|
| 84 | | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | (自己評価) 空気調整機が各居室にあり、天気の良い日は、毎日4回以上の換気を時間を決めて行っています。湿温度計をリビングなどに置き、横に好ましい湿温度がわかるよう職員が手作りで、表示しています。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | | |
| 85 | | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | (自己評価) 掃除が安全に行えるようコードレス掃除機を入居者用に導入している。また、入浴はその人に応じ補助具を設置している。 | | |
| 86 | | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | (自己評価) 職員が関与し、その方のわかる力を理解しながら、それを活用し、精神状態安定を計っている。 | | |
| 87 | | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | (自己評価) ホーム庭には、持ち上げ式花壇（レイズベッド）を置き、園芸作業をしたり、ベランダで洗濯物や布団干しを職員と一緒にしたり、毎朝、水遣りをされる入居者様もいる。 | | |

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

| V. サービスの成果に関する項目 | | | |
|------------------|--|---|---|
| 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと) | 判断した具体的根拠 | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない | 普段の生活より、アセスメントシートを活用した聞き取りや表情や言動の観察を行い、意向の把握ができています。 |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない | 15時の時間を中心に、職員も手を休め、入居者様と一緒にゆったりした時間を過ごしている。 |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない | リビングでテレビを見て過ごしたり、食事作りのお手伝いをしたり、その方のペースで過ごされている。 |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない | お手伝いや役割活動など、ご自分から進んでしていただける方が多く、また、その都度に声かけをし、実施してもらい、実施中は、笑顔も多くみられる。 |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない | 入居者会議での要望、行きたい場所などの聴いたことを、月間の行事などに追加し、外出にも活かしている。 |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない | 毎日のバイタルチェックや状態観察をおこなっている。かかりつけ医が2週間に1回往診していただいたり、その他の医療機関でも対応できるようにしている。救命講習を職員が受けたり、救命マニュアルの勉強会も行っている。 |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない | 生活中に、不安な方がいらっしゃったら、職員全員に申し送りをし把握しながら、そばに付き添ったり、交代で関わるようにしている。 |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない | 何かあれば、すぐ連絡し、面会に来ていただいた時には、日ごりの状態や受診や往診の報告、行事や生活における活動の報告などを密に説明したり、面会が少なければ、電話にて報告したり、また、各担当者を中心に家族を含め、不安などの把握を行っている。 |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない | 回覧板も入居者様と一緒に回している。昔住み慣れた近所の方や友人が訪ねてくることもあり、地域の行事、ホームの行事などに参加し、また、地域の方が来てくださっている。 |

| 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと) | 判断した具体的根拠 |
|-----|---|---|--|
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない | 盆踊りやそうめん流しなどのイベントに参加していただき、入居者様との交流が深まり、散歩の際などに声をかけて頂ける機会が増えた。 |
| 98 | 職員は、活き活きと働いている | 1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 職員同士の伝達や意思疎通が不十分な時や、知識不足による情報や意見の違いなども多少ある。 |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 個々の要望や行きたい場所、したいことをもっと聞いてかなえられるようにしていきたい。 |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない | 面会やイベントへの参加も増え、喜んで満足していただいている方も居るため、その数を一人でも増やしていきたい。 |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・散歩や歩行練習の際には、地域の方から声をかけて頂き、採れたてのトマトやナスなどの野菜をもらったり、交流を図っています。・月一回ある勉強会を利用して、その方に応じたケアプランの作成や見直しをユニットで話し合い、今後のケアにつなげられるようにしています。・昔懐かしい場所、住み慣れていた場所に職員、ご家族と足を運び、昔を思い出してもらったり、喜んでもらっています。・月に2回地域のパン屋さんに庭の parasolスペースで販売してもらい、地域の方と交流したり、好きなパンを購入し、入居者様の楽しみの一つとなっています。・高校生や中学生の職場体験の受け入れを行い、グループホームとはどんなところで、どのように生活されているかを、一緒に感じて学んでもらう場を作っています。・健康栄養委員、生活委員、環境委員、広報委員、ケアプラン担当と各委員等を設けて、職員一人ひとりが役割や責任を持って、仕事をしてもらっています。また、各入居者様を担当制にし、身体的、精神的な気付きや細やかな対応ができるようにしています。・そうめん流し(もみじを飾る)やいもたき等を通して、季節を感じたり、雰囲気を楽しんで頂く工夫をしています。